

# 教職員

問3 年代	問6 (学校の再編について)	問7 (小中一貫教育の推進について)	問8 (その他)
60～69 歳	編成計画素案で異議ありません。	一貫教育の良し悪しが余り実感として無いのですが教育の質の向上とより良い環境づくりへの方向性で進めていただければ賛成です。	新築の際、各校の特色はあろうとは思いますが、どの校舎を見ても同じ水準の環境づくりを進めて頂きたい。
40～49 歳	児童数も減り、仕方がないと思います。	中1ギャップを考えても良いことだと思います。	特にありません。
30～39 歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再編後の教員配置数について知りたい。</li> <li>・再編後も、一学校につき配置できる教員数に決まりはあるのだろうか、できるだけ教員数を確保していただき、特別支援学級や学習室登校の生徒、不登校生徒等への、より丁寧な対応ができると良い。</li> </ul> 担任は支援を要する生徒を複数名受け持っており、学級・教科・部活・校務と忙しい中、手一杯で十分な対応ができているとはいえない状況である。また、全職員で学習室登校生徒を分担して見ているが、登校時間にバラつきがあるため生徒の登校に気づかずに時間が過ぎてしまうこともある。より充実した指導と負担軽減の為に、学年の担任外は各クラスの副担任とし、特別支援学級や学習室には専属の教員を配置していただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・再編後の学校名は、地域の声も考慮したい。</li> </ul>		
30～39 歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画案にも書いてある通り、クラス替えができるくらいの規模になると、生徒指導や学校行事等にとっても良いと思う。</li> <li>・統合することには賛成であるし、避けられないことだと思う。問題は、統合する学校同士の調整であり、統合までの準備や交流を十分に行うことが、統合後の摩擦を減らすことにつながると思う。</li> <li>・地域への説明も時間をかけていき、学校に協力してもらえようようにしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校規模という側面で見れば、位置関係で他の小中学校との統合が難しい場合(特に本校のような山合いの高い所にある学校など)、施設一体型の小中一貫にすることは有効であると思う。また、9年間の見直しをはっきりとをもって児童生徒に教育を行うことができる。現在も、学区の中学校の入学生は、ほとんどが本校の児童であるため、実現性は高いものと思われる。</li> <li>・他の小中学校においては、学区をグループ化して、小中一貫にするという考えは良いと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校数が減るということは、全体の教職員数はどうなるのでしょうか。児童生徒、保護者だけでなく、働く側にとってもどうなるのかという不安があります。</li> <li>・統合する、しないに関わらず、学級編成の規定の見直しもできないでしょうか。(1クラスの在籍数の上限を引き下げるなど)多様なニーズに応えようとするには、40人学級は大変厳しいです。支援員がいれば良いというわけでもありません。新しい生活様式が求められるこのご時世に、一つの教室に40人が一緒にいさせることの不安は、想像にかたくはないでしょう。学校では対策に奮闘していますが。</li> </ul>
20～29 歳	将来の日立を担う子どもたちにとって、必要なことです。地元愛を大切にしながら、未来に向けた教育を推進していきたいと思います。お世話になります。		
50～59 歳	学校規模を踏まえ、3学級以上の学年構成や、教員数確保をお願いしたい。	複数の地域を超えた通学をする場合、本来ある配置校への生徒数が減る予想が立つので、どちらとも言えない。	

## 教職員

問3 年代	問6 (学校の再編について)	問7 (小中一貫教育の推進について)	問8 (その他)
40～49 歳	学校再編することによって、充実した教員数で子どもたちと関わるのでいいと思います。		
50～59 歳	様々なことを考慮しての計画でしょうから従うだけです。ただ、地域への説明などの対応が学校任せにならないようにお願いします。	教育効果は上がると思うので賛成です。職員室が小学校と中学校で分かれていたり、行事が別々だったりすると、職員がまとまらない気がします。	
20～29 歳	地域の住民、学校の教職員、保護者、学校運営協議会など、様々な人々の意見を吸い上げるなどして、学校再編を進めていく必要がある。		
50～59 歳		いい考え方だと思います。ただし、しっかりと小学校と中学校との間で連携がとられればの話です。情報交換を密にしたいです。	
50～59 歳	<p>様々な課題に対処策を熟考したうえでの学校再編に賛成である。</p> <p>国立社会保障・人口問題研究所の最新推計でも明らかになっているように、今後も人口減少が止まらないのは重大な問題である。人口が増えている市町村もあることから、その市町村の成功事例を分析し、施策の工夫によって改善できる可能性があるのではないかと思う。</p> <p>人口は、若者の働く場所、生活利便さ、住みやすい環境など、地域の特徴が大きく反映されることから、各家庭の経済状態の安定が重要である。</p> <p>～無料化や税制優遇などでは、人口増加など一時的には効果が上がると考えるが、地域の不活性化、治安の悪化など負の面もあり安易に行うべきではない。公立学校の児童生徒の安定は、家庭の安定が大きく反映されることから、住みよい町をめざすべきであり、お金のかからない町をアピールすべきではないと考える。</p> <p>それらを考慮したうえでの学校再編はよいことだと考える。3クラス以上の生徒数の中であれば、社会性を身につけることが可能であり、様々な人間関係の対処の方法を学ぶことができる。さらに手厚く支援するために、1クラス30人以下を実現してよりよい生徒の人間育成を進めるべきである。そのような取り組みを経験した子供たちは、また故郷に戻ってきたいと思うことになり、持続可能な社会になっていくのではないかと思う。</p>	<p>小中一貫教育を進めることは、賛成である。</p> <p>学校は、社会に出る前に予行演習を行う場所でもある。現代社会は、競争の社会でもあるのでそこで生き抜くすべを身につけなければならない。多くの生徒数の中で互いに関係を深め、己を知り、他を認める活動を通して、社会不適應の生徒を減らせるのではないかと考える。</p> <p>小中一貫校では、中学生が小学生を面倒を見る機会も増え他者理解が進むのと同時に、自己理解も深まると考える。そのためにも、校舎が離れた連携型の小中一貫ではなく、校舎が一緒の一体型の小中一貫教育が理想である。</p>	<p>学校は、地域とのつながりが非常につながりが大きい。高齢者は学校がなくなることを地域の衰退ととらえ恐怖に感じてしまう。それをもとに、学校再編が進まないのはよくない。人口減少が進むことは避けられない。目の前のことにとらわれず、20年、50年先を見た対応をお願いしたいと考える。</p>

# 教職員

問3 年代	問6 (学校の再編について)	問7 (小中一貫教育の推進について)	問8 (その他)
30～39 歳	<p>メリット、デメリットの両面が考えられる。</p> <p><input type="checkbox"/>メリット 学校再編をし、各学校に一定の児童生徒数が確保されることで、次の課題が解消できると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス替えの実施</li> <li>・人間関係の固定化の回避</li> <li>・子供同士の幅広い交流</li> <li>・多様な意見に触れる機会の拡大</li> <li>・部活動の選択肢の拡大</li> <li>・一定数の教職員の確保による円滑な学校運営</li> </ul> <p><input type="checkbox"/>デメリット 次のような課題が生じると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「1小学校区に1コミュニティ」という日立市の特色の崩壊</li> <li>・「学校－地域の連携体制」の弱体化</li> <li>・現在の学校で築き上げられてきた「伝統」の消失</li> <li>・児童生徒の通学距離の遠距離化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育9年間の教育環境を整備し、子供の成長を支えるために教育効果を最大限に引き出そうとする仕組みづくりはとても大切だと考える。</li> <li>・「市内を7つのエリアに分け、エリアごとに中学校1校と小学校1～3校のグループ化をする」という計画は評価できる。</li> <li>・この再編計画に基づき「小中一貫教育」を推進することによって、教育カリキュラムや生徒指導面での連携が一層充実すると期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の財政は大丈夫なのか。（コロナ対応、ICT整備の対応、校舎新築・改築等、市の財政への急激な負担）</li> <li>・既存の校舎を再編後にどのように活用するのか。（特に、日高中、大久保中、諏訪小など新築したばかりの校舎の、再編後の活用案。）</li> <li>・災害時の避難所体制がどうなるのか。（学校が地域から消失した場合の、地域住民の避難場所）</li> </ul>
30～39 歳	<p>良い取り組みだと思います。</p> <p>ただ、再編に伴って、個人単位の負担が大きくなるように、職員の増員なども検討してほしいです。</p>	特にありません	<p>現状でも、部活動や残業などで、教職員の負担が大きすぎます。私自身、何かと管理職と勤務について相談していますが、改善がありません。心身共に病み、今後続けることも難しいです。</p> <p>管理職や教育委員会にとって、働き方改革とは形だけで、こちらが進言すると「現実がー」「周りが残っているからー」「無理だからー」と改革する意識がゼロです。</p> <p>ここから少しでも、人権を考慮して働き方が改善されることを祈ります。そのためにできることを私もしたいと思います。</p>
50～59 歳	<p>児童・生徒数減と成果の上がる指導を考えると大規模な再編が必要であると考えます。地域の人々にとって不公平感ができるだけないように配慮されることを望みます。通学の方法なども地区によって不便にならないような策を講じるべきです。</p>		
40～49 歳	<p>学校の数が減ることによって教員の数も減ることになり、児童生徒へのきめ細かな指導ができるのか不安があります。</p>		

# 教職員

問3 年代	問6 (学校の再編について)	問7 (小中一貫教育の推進について)	問8 (その他)
30～39 歳	<p>・少子化、予算問題、教職員の減少、住宅地の偏り等々から、この先、学校再編が必要になってくると思いますが、今回の学区割をみると、かなり広く、子どもの負担と考えます。</p> <p>・この物騒な時代に、長距離を歩かせるのは、みなさん不安だと思います。スクールバス案が不透明なのですが、そこは予算の問題かもしれませんが、バスの活用が必須ではないかと思っています。</p>		<p>・以前から、1クラスの定員について、現場から声をあげていますが、何も起こらず、非常に苦しい状況です。特別支援の児童が通常学級に日常的にいる状況が長く、決まった時間のみ特別支援のクラスに行くスタイルなので、特別支援の児童数も込みでクラス編成をお願いしたいです。</p>
40～49 歳	<p>○児童生徒の通学時への不安が大きいです。通学路の安全面への配慮が具体的なものでなければ保護者の理解も得づらいのではないかと思います。集団登下校の実施や、スクールバスの運行など、具体的な策をとるべきではないかと思えます。</p> <p>また、学区が拡大されることで、保護者の来校の際の交通手段も配慮されるべきだと思います。見守りやボランティアの方の協力、また保護者の負担増に関しては、実態には合っていないように思います。</p> <p>○現在のクラス定員が特別支援のお子さんを入れないでのカウントになっていますが、ほとんどの教科において特別支援のおさんが通常学級にいる今の状況で、さらにクラス増、子供の人数を増やすことへ不安を感じます。ひとりひとりの子供をもっとよくみてあげたいです。教職員の数を確保できるのであれば、まずは少人数学級を実施していただきたいです。</p>	<p>施設一体型での中高一貫教育は想像できますしメリットを感じますが、施設分離型ですと、教職員の負担増ばかりが予想され、それに対して児童生徒へのメリットが少ないように感じます。</p> <p>児童生徒の交流が日常にあってこそ大きなメリットがあるように感じます。</p>	<p>個性豊かな教職員が多いと感じていますが、再編に伴い、児童生徒数の増加、教職員の増加で、一つの大きな学校の中で、全職員の目で、子供たちひとりひとりの個性を伸ばしてあげることが更に困難になってしまうのではないかと不安があります。</p> <p>学級担任が1人で抱え込んでしまう環境になってしまうのではないかと感じています。</p> <p>是非、再編後の日常の学校生活をみんなで想像し、子供たちの未来にとって明るくなるような選択をしていきたいですし、そうでなければいけないと思います。再編がスタートしてから混乱することのないようにしていけるようにならなければいけないと思います。</p>
30～39 歳	<p>具体的なスケジュールが明示されて非常に驚きました（統合・校舎移転の対象となったため）。地域あつての学校ですので、ぜひ地域からの意見ひとつひとつに、丁寧に耳を傾けていただきたいと思います。</p>	<p>小中一貫教育は、学年・小中を越えた多様な関わり方を児童生徒が持つことで、よりよい人間関係を築けるものだと思います。また、学業面においても小中間の教員の交流が図られることで、多様でより充実した学びを児童生徒が受けられるものと考えます。未来に活躍する人材育成の土台として、小中一貫教育の積極的な推進をお願いします。</p>	<p>学校再編とは直接関係ないのですが、泉丘中学校の校舎は統合後、どういった用途で使用される見込みでしょうか？</p>
20～29 歳	<p>現在、担任業務は、生徒指導、学習指導、学級事務、学年行事運営、校務分掌など多岐にわたっています。勤務時間内で終わる業務量ではなく、多くの教員が、月40から80時間程度残業しています。残業代が全額支給されていないにもかかわらず、公立教育がなんとか保たれているのは、現場の先生方の使命感や善意でしかありません。日立市にとっても、これからの子どもたちにとっても、先生方の働き方を改善することは、大きなメリットがあります。そこで、多岐にわたる</p>		

# 教職員

問3 年代	問6 (学校の再編について)	問7 (小中一貫教育の推進について)	問8 (その他)
	<p>業務を見直し、業務量削減を日立市指導の下進めていただきたいです。現場で声を上げてもなかなか変わりません。トップダウンでの変革を求めます。業務量を精選した上で、分業を望みます。具体的には、教科指導業務と担任業務を分けることです。</p> <p>学校数が減ることによって、校長や教頭、教務、養護教諭、事務職員、担外などの人員が生まれます。児童が集約されることで、学級数も減り、担任の数も減らせます。そうして生まれた人的資本を使うことで、実現は可能と思われれます。</p> <p>理想は、教科指導員を専科制にしたいところですが、おそらく人数が足りません。そこまでは求めませんが、学年に1人だけでも学級事務を入れていただければ大きな改善になります。健康観察や電話連絡、宿題の丸付け、作品の提出、掲示物の作成、ハンコ押し、書類のチェックなどをしていただければ、大きく変わります。一番の業務である学習指導に多くの時間を使えることになります。業務量削減や適材適所の人員配置と共に、先生方の自分の時間に対する意識改革を行えば日立市教員の長時間労働問題は全国に先駆けて改善されます。その取り組みは注目を集め、日立市の教育をアピールできます。教科指導員による専門的な授業や先生方の時間的・心理的余裕は、子どもたちにとって大きなメリットがあります。日立市で子育てをする方の増加も見込めます。激務からくる教員の離職や休職も減り、コストダウンにもつながります。人口減少に伴う、大きな変革を進めようとしている今こそ、学校の中身についても改革を望みます。こういった機会でないと、いつまでも変わりません。全国に先駆けて変革し、教育で日立市の魅力を発信するべきです。学校の統合には大賛成です。大変な業務をここまで形にいただき、本当に感謝申し上げます。</p>		